

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

錬金術とは、さまざまな金属から金を作り出す秘術である。

古代ギリシアで活躍したアリストテレスは、全てのものは火、空気、水、土の四大元素からできていると考えた。この考えをもとにして錬金術が生まれた。

錬金術は、文化の中心として栄えていた古代エジプトからイスラム世界へと伝わった。その後、十二世紀にヨーロッパへ伝わって、多くの人々に研究された。

錬金術師たちは、あるものを①よりよいものに変える賢者の石を作ろうとした。賢者の石を使えば、銅を金に変えることもできると考えられた。また、賢者の石は、エリクサーの材料ともいわれる。エリクサーは、人間を不老不死にする薬である。

しかし、錬金術は、賢者の石を作り出せなかった。その代わり、さまざまなものの性質や反応などを研究する化学を生み出した。

十八世紀には、元素の考え方が変わった。十九世紀には、元素の正体が原子であると考えられるようになった。これらの考えをもとにして、化学はどんどん発展していく。

二〇一六年六月九日、日本で新たに発見された元素のニホニウムが発表された。ニホニウムは人間によって作り出された元素である。このような②現代の化学こそ錬金術と考えられないだろうか。

問一 ――部①「よりよいもの」の例を本文中からすべて抜き出しなさい。

問二 ――部②「現代の化学こそ錬金術と考えられないだろうか」とあるが、筆者が現代の科学を錬金術と考えるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 元素の考え方が変わったから。
- イ 元素の性質などを研究するから。
- ウ 新たに元素を発見しているから。
- エ 人間が元素を作り出しているから。

問三 本文の内容に合致する文として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 錬金術のもとになる四大元素の考えは古代エジプトで生まれた。
- イ 錬金術は文化の中心のヨーロッパからイスラム世界へ伝わった。
- ウ 化学が生まれる前は賢者の石を作ろうとする錬金術が盛んに研究された。
- エ 元素の正体が原子であるという考え方をもとに錬金術が大いに発展した。